【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成28年7月28日(2016.7.28)

【公表番号】特表2015-522567(P2015-522567A)
【公表日】平成27年8月6日(2015.8.6)
【年通号数】公開・登録公報2015-050
【出願番号】特願2015-517440(P2015-517440)
【国際特許分類】
Ｃ０７Ｋ　16/28　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　33/574　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　33/573　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　39/395　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/02　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　38/00　(2006.01)
Ｃ１２Ｎ　15/113　(2010.01)
Ｃ１２Ｎ　15/09　(2006.01)
Ｃ０７Ｋ　16/40　(2006.01)
Ｃ１２Ｑ　1/68　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０７Ｋ　16/28　ＺＮＡ
Ｇ０１Ｎ　33/574　Ａ
Ｇ０１Ｎ　33/573　Ａ
Ａ６１Ｋ　39/395　Ｃ
Ａ６１Ｋ　39/395　Ｅ
Ａ６１Ｋ　39/395　Ｌ
Ａ６１Ｋ　39/395　Ｔ
Ａ６１Ｐ　35/00
Ａ６１Ｐ　35/02
Ａ６１Ｋ　37/02
Ｃ１２Ｎ　15/00　Ｇ
Ｃ１２Ｎ　15/00　Ａ
Ｃ０７Ｋ　16/40
Ｃ１２Ｑ　1/68　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成28年6月8日(2016.6.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
細胞毒性薬にコンジュゲートせしめられたＳＡＳ１Ｒ抗原に特異的な抗体又は前記抗体の結合性フラグメントを含む、免疫毒素分子。
【請求項２】
細胞毒性薬はＩ型リボソーム不活性化タンパク質である、請求項１に記載の免疫毒素分子。

【請求項３】
Ｉ型リボソーム不活性化タンパク質はサポリンである、請求項２に記載の免疫毒素分子。
【請求項４】
抗体はモノクローナル抗体、ポリクローナル抗体、キメラ抗体、ヒト抗体、又はヒト化抗体である、請求項１に記載の免疫毒素分子。
【請求項５】
抗体の結合性フラグメントはＦ（ａｂ’）$_2$、Ｆ（ａｂ）$_2$、Ｆａｂ’、又はＦａｂである、請求項１に記載の免疫毒素分子。
【請求項６】
請求項１に記載の免疫毒素と、生理学的に許容可能な担体とを含む組成物。
【請求項７】
がん細胞を殺滅し、阻害し、又は脱落させるための医薬組成物であって、請求項１に記載の少なくとも１つの免疫毒素分子を含む、医薬組成物。
【請求項８】
がんは、癌腫、肉腫、子宮がん、卵巣がん、肺がん、腺癌、肺の腺癌、扁平上皮癌、肺の扁平上皮癌、悪性混合ミュラー腫瘍、白血病、リンパ腫、神経芽腫、黒色腫、乳がん、前立腺がん、膵臓がん、腎臓がん、膀胱及び類内膜癌からなる群から選択される、請求項７に記載の医薬組成物。
【請求項９】
がんの治療用の医薬組成物であって、免疫毒素コンジュゲートを含み、
前記免疫毒素コンジュゲートは、細胞毒性薬にコンジュゲートせしめられた抗体又は前記抗体の結合性フラグメントを含み、前記免疫毒素コンジュゲートの前記抗体はがん細胞上のＳＡＳ１Ｒに結合し、かつ細胞上のＳＡＳ１Ｒ分子への前記免疫毒素分子の結合により、ＳＡＳ１Ｒを発現している細胞の殺滅、脱落、又は増殖阻害がもたらされる、医薬組成物。
【請求項１０】
細胞毒性薬はＩ型リボソーム不活性化タンパク質である、請求項９に記載の医薬組成物。
【請求項１１】
Ｉ型リボソーム不活性化タンパク質はサポリンである、請求項１０に記載の医薬組成物。
【請求項１２】
抗体はモノクローナル抗体、ポリクローナル抗体、キメラ抗体、ヒト抗体、又はヒト化抗体である、請求項９に記載の医薬組成物。
【請求項１３】
抗体の結合性フラグメントはＦ（ａｂ’）$_2$、Ｆ（ａｂ）$_2$、Ｆａｂ’、又はＦａｂである、請求項９に記載の医薬組成物。
【請求項１４】
がんは、癌腫、肉腫、子宮がん、卵巣がん、肺がん、腺癌、肺の腺癌、扁平上皮癌、肺の扁平上皮癌、悪性混合ミュラー腫瘍、白血病、リンパ腫、神経芽腫、黒色腫、乳がん、前立腺がん、膵臓がん、腎臓がん、膀胱及び類内膜癌で構成されている群から選択される、請求項９に記載の医薬組成物。
【請求項１５】
がんの治療用の医薬組成物であって、がん細胞上のＳＡＳ１Ｒに結合する第１の抗体又は前記抗体のフラグメント、及び第１の抗体に結合する第２の抗体であって細胞毒性薬にコンジュゲートせしめられた第２の抗体を含む、医薬組成物。
【請求項１６】
抗体は、モノクローナル抗体、ポリクローナル抗体、キメラ抗体、ヒト抗体、又はヒト化抗体である、請求項１５に記載の医薬組成物。

【請求項１７】
抗体の結合性フラグメントはＦ（ａｂ’）$_2$、Ｆ（ａｂ）$_2$、Ｆａｂ’、又はＦａｂである、請求項１５に記載の医薬組成物。
【請求項１８】
細胞毒性薬はＩ型リボソーム不活性化タンパク質である、請求項１５に記載の医薬組成物。
【請求項１９】
Ｉ型リボソーム不活性化タンパク質はサポリンである、請求項１８に記載の医薬組成物。
【請求項２０】
卵巣がん、子宮がん、膀胱がん、腎臓がん、膵臓がん又は頭頸部扁平上皮細胞癌（ＨＮＳＣＣ）の診断を補助する方法であって、対象者の卵巣、子宮、膀胱、腎臓、膵臓又は頭頸部からの生体試料中のＳＡＳ１Ｂを測定すること、及び、前記対象者の卵巣、子宮、膀胱、腎臓、膵臓又は頭頸部からの生体試料中のＳＡＳ１Ｂの存在に基づいて前記対象者における卵巣がん、子宮がん、膀胱がん、腎臓がん、膵臓がん又は頭頸部扁平上皮細胞癌（ＨＮＳＣＣ）を判定することを含む方法。
【請求項２１】
対象者は哺乳動物である、請求項２０に記載の方法。
【請求項２２】
ＳＡＳ１ＢはＳＡＳ１Ｂのタンパク質、ｍｉＲＮＡ又はｍＲＮＡである、請求項２０に記載の方法。
【請求項２３】
検出は分析デバイス及び分析プログラムを用いて結果を分析することを含む、請求項２０に記載の方法。
【請求項２４】
分析デバイスはコンピュータを含む、請求項２３に記載の方法。
【請求項２５】
分析デバイスは配列分析装置を含む、請求項２４に記載の方法。
【請求項２６】
ＳＡＳ１Ｂのタンパク質、ｍｉＲＮＡ又はｍＲＮＡのレベルは分析デバイス及び分析プログラムで定量化される、請求項２３に記載の方法。
【請求項２７】
前記ＳＡＳ１Ｂのタンパク質、ｍｉＲＮＡ又はｍＲＮＡは、ＥＬＩＳＡ、イムノアッセイ、免疫蛍光検査法、免疫組織化学法、免疫沈降、ノーザンブロット法、ウエスタンブロット法、ＰＣＲ法、質量分析、及び表面プラズモン共鳴からなる群から選択された方法を使用して検出される、請求項２０に記載の方法。
【請求項２８】
試料は組織生検である、請求項２０に記載の方法。